

2018年6月14日

○ 6月定例所長会見における発電所長挨拶内容

- 所長の設楽でございます。
- 福島第一原子力発電所の事故から、7年3ヶ月が経過いたしました。今もなお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、あらためまして心よりお詫び申し上げます。
- 本日、私からは2点お話しをさせていただきます。
- まず始めに、当発電所6号機、7号機における建物・構築物等の液状化対策を含む耐震強化工事の対応状況についてです。

これまでにお示ししてきた10項目の工事については、評価や詳細設計を継続しながら、取水路など着手できる工事を鋭意進めているところです。

昨日も、大物搬入口の工事に先立ち、搬入口の管理区域解除や解体にあたっての廃棄物の扱い等について、保安規定の変更認可申請を行いました。また、フィルターベントの基礎や軽油タンクの基礎等の地盤改良工事については、この秋にも着工できるよう準備を進めております。

液状化対策に関連する工事については、引き続き、詳細設計や現場の工事をしっかりと進めるとともに、工事の進捗について、地域の皆さまへの丁寧な情報発信に努めてまいります。
- 次に、柏崎市、刈羽村におけるコミュニケーションブースの実施

結果についてです。

地域の皆さまとのフェイス・トゥ・フェイスでの対話活動を通じて、新規制基準の審査状況や安全対策の現状等を理解していただくため、柏崎市内、刈羽村内で「東京電力コミュニケーションブース」を展開してまいりました。実績としては、3月末から5月末までにかけて、合計19カ所の会場で開催し、ご家族を中心にあわせて1,090名の方々にご来場いただくことができました。

このたびのコミュニケーションブースでは、カルチャー教室やキッズスペースなどイベントの要素も盛り込み、気軽に足を運んでいただけるようなしつらえとしながら、ヴァーチャルリアリティー映像による安全対策の取り組み状況の紹介や、パネル展示などによる日本のエネルギー事情や原子力発電の仕組み、必要性の説明などを行い、皆さまからのご意見などを伺いました。

ご来場いただいた方からは「パネルや模型の展示があって、スタッフの説明も分かりやすかった」「万が一、冬期間に事故が起きた場合、交通渋滞などにより避難が確実にできるのか不安である」等のご意見をいただきました。

今後も、地域の皆さまのご意見やお気持ち等をお聴きする機会を大切にし、ご不安や疑問におこたえするとともに、発電所の状況等をわかりやすくご紹介し、ご理解いただければと考えております。

○ 本日、私からは以上です。

以 上